

食と農のあるべき姿を求めて・有機農法の実践者として

宮城県大崎市 佐々木陽悦

はじめに

- 農薬による食の安全と生産者の健康被害から農薬問題に取り組む 1970年代後半
有機農業運動との出会いが農法を変える 1978年
- 1、地域ぐるみの危険な農薬を排除する運動に
パラコート、ダイオキシン系農薬、空中散布反対運動
有機稲作の始め 20aで 手押し除草機、手取り除草 1980年
生協との出会い（みやぎ生協、東都生協）野菜産直の開始 1981年
 - 2、生協との産直米提携の開始（みやぎ生協、コープさっぽろ） 1989年
有機農業から地域ぐるみ取り組む農薬化学肥料節減の農法に動く
 - 3、環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）が有機農業に再び向かう 1998年
地域ぐるみの有機栽培米の拡大運動
有機稲作技術の確立へ
○種子消毒に温湯消毒器の導入（タイガーカワシマ第一号機） 1999年
○育苗技術の確立 プール育苗
○抑草技術
深水管理、米ぬか、屑大豆等を使い酸素欠乏、光合成細菌やラン藻類による光遮断
乗用除草機の導入 2004年
生物多様性豊かな水田農業が確立された
△困難な管理作業・・・深水が安定的に確保できない
 - 5、大区画圃場整備後の有機稲作 新しい有機稲作技術の必要性 2010年後半
○パイプラインによる深水管理が安定して可能に
△土壌の劣化、生物多様性破壊、魚類、カエル等の減少、イトミミズなどの減少
対応 水田魚道の設置・・・水路から魚介類が減少効果半減
アイガモロボットの試験 2022年
 - 6、持続的有機稲作経営のための課題
安定的な有機稲作技術の確立には
生産者と研究者の提携による技術の確立、指導体制
乗用除草機が使えない水田の解消
生物多様性（ドジョウやフナ、メダカが産卵する水田）豊かな河川、水田
化学分析と貫入式土壌硬度計による土壌調査 120件余 2022年
不安定な収穫量、経営を支える支援、消費者の理解と購入行動

食と農の有るべき姿を求めて 消費者との共生を貫く農業の40年



戦後使われた農薬

農業専用薬
3.H.C.粉剤

三明化学株式会社

本省登録

第1807号

セシサン石灰

日本農薬

農薬削減宮城県内の科学者・医師と提携 みやぎ生協等の消費者の支援

水田除草剤 CNP県内初の追放

田尻農協

中沢弘一組
田用初期除
抜いをやめ
に毒性は低
、極めて
に農薬登録
CやD D T
しので環境
の一部分の農
農協などC
全国的な広
。本県では
その取り扱
ったが、そ
青年部らの
トし、農
考えてみ
政之記者)

大崎平野の中心部に位置す
る水田地帯、田尻。五十五
年、減反政策と複合農業を確
立する必要があるから、農村青年た
ちが中心になって野菜生産拡
大に乗り出した。

「最初は自給野菜と同様、
農薬を抑えて栽培した野菜を
市場に出したら虫がついてい
るからと言われ、いい値はつ
かなかつた。市場野菜との違
いに驚いたが、自分たちの健
康に影響を及ぼす農薬を使っ
てまで売ろうとは思わなかつ
た」と当時の農協青年部長佐
々木陽悦さんは振り返る。

「最初は自給野菜と同様、
農薬を抑えて栽培した野菜を
市場に出したら虫がついてい
るからと言われ、いい値はつ
かなかつた。市場野菜との違
いに驚いたが、自分たちの健
康に影響を及ぼす農薬を使っ
てまで売ろうとは思わなかつ
た」と当時の農協青年部長佐
々木陽悦さんは振り返る。

「最初は自給野菜と同様、
農薬を抑えて栽培した野菜を
市場に出したら虫がついてい
るからと言われ、いい値はつ
かなかつた。市場野菜との違
いに驚いたが、自分たちの健
康に影響を及ぼす農薬を使っ
てまで売ろうとは思わなかつ
た」と当時の農協青年部長佐
々木陽悦さんは振り返る。



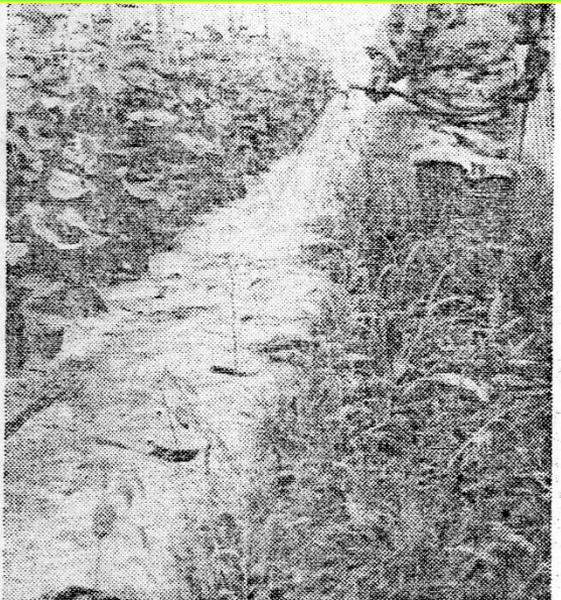
「最初は自給野菜と同様、
農薬を抑えて栽培した野菜を
市場に出したら虫がついてい
るからと言われ、いい値はつ
かなかつた。市場野菜との違
いに驚いたが、自分たちの健
康に影響を及ぼす農薬を使っ
てまで売ろうとは思わなかつ
た」と当時の農協青年部長佐
々木陽悦さんは振り返る。

無農薬野菜の産直進めた

青年ららの運動実

トワモロコシ、ニンニク、タ
マネギが。輪作するために多
品目の作付けを行っている。
同町大峰の佐藤久行さん三
三は、水田の中にハウスを建
て、ホウレンソウ畑を作っ
た。病気になるにくく虫もつ
かないので農薬はいらないと
消費者の支えがあったからこ
そ出来た」と話す。

同農協は、西月に決めた地
域農業振興計画で安全な農産
産物の生産を進めることを最
大の柱とした。
シンジかららもCNP
産直委員会は、こうした技
術面の取り組みの上に農薬使
用の条件を定めた。「無農薬
していい



移植で無農薬栽培に挑戦(田尻町の千葉さんのハウス)

調査年	県内河川の魚介類から 検出されたCNP (県保健環境部調べ)		平均	
	最 低	最 高	最 低	最 高
55	nd	20.9	0.03	83.84
56	0.03	30.67	0.03	91.84
57	nd	13.31	0.03	83.84
58	nd	15.1	0.03	83.84

(単位はppm)

「これはの低(無)農薬栽
培の実績と、こうした青年た
ちの試みについて中沢組舎長
は「機械的に農薬をまいてい
たけれど、使わなければそれ
でもできるもんだ。しかし、
消費者の支えがあったからこ
そ出来た」と話す。

から中
キン
る。ま
ら高
れ、開
「安
協が自
る農薬
う」と
論議式
も取り
決めた
在庫分
在庫分
使われ
話して
県は
先日

みやぎ生協最初の産直米共同購入

10

産直米はおいしいです。

宮城田尻町農協の産直委員長でもある佐々木陽悦さんを囲んで、地域担当理事の自主学習会が8月4日に行われました。

日本の農業問題にも精通し、産直活動にも熱心な佐々木さんも、産直省農薬米の生産者のおひとりなのです。その佐々木さんから

「産直省農薬米は、おいしいですよ」と言われて、理事さんたちもちょっとびっくり。

「産直省農薬米は、有機肥料を使っています。しかも出穂以後は追肥をしません。さらに、乾燥も水分15%~16%と決めています。まず、有機肥料を使ったお米は、化学肥料を使ったお米と、あきらかに味に違いがでます。追肥も与えれば収量はアップしますが、味が落ちます。産直省農薬米は、追肥しなくても丈夫に育つように土づくりからしっかりやっていますから、追肥しなく

てもいいのです。そして、乾燥。これも、水分が14.5%以下のは普通米として出荷します。だから、産直省農薬米の中には、乾燥のしすぎで味がおちているのではないですよ」

「おいしさ」は、人それぞれ違いますが、産直省農薬米が「おいしいお米」になる栽培方法で作られているということは、毎日食べるものだけにうれしいですね。



班長会でも登場する産直米の紙しばいです。

産直省農薬米ってなあに？



栽培方法や農薬の使い方について、みやぎ生協と生産者、農協が一緒になって考えたお米です。



宮城田尻町農協産直委員長 佐々木陽悦

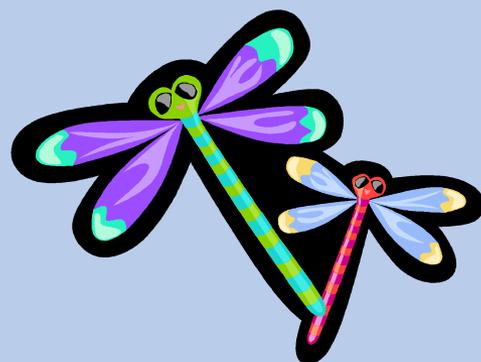
新米は、10月5週から！

今年は10月5週から、産直省農薬米が登場の予定ですよ。お米のプロが「おいしい」と自信をもっておっしゃる産直省農薬米。今のところ、天候も良く、順調です。新米の楽しみが今年はずっと大きくなりそうですわね。



水稲の有機農法への挑戦事例

生物多様性と地球温暖化



米ぬかくず大豆、深水管理などを使った抑草による無農薬栽培技術
田んぼの生きものが食の安全と環境をかたる生物多様性稲作



温湯消毒機第一号

温

米ぬか発酵肥料の散布 資源循環





米ぬか 屑大豆



米ぬかのマルチ



濁り 光を遮断し抑草



生きもの調査の始まり
2001年



イトミミズ

有機物を食べ糞にするイトミミズ
田んぼの肥料工場の役割

イトミミズ



アキアカネ



ナツアカネ

メダカ
の住む田んぼ



ササキ ヨウエツ
佐々木 陽悦

(無農薬無化学肥料栽培)

主な生き物：メダカ、ナツアカネ、
ニホンアカカエル

生き物が冬を越す小水路が近く、また、
田んぼとの行き来が簡単です。深水と
米ぬかを使うので、ほかの生き物も豊富
です。

過水地域環境創造型農業技術開発プロジェクト・宮城県

生きものを食の安全
環境のモノサシに

たじり田んぼの生きものの宣言マーク

基本理念マーク
たじり田んぼの生きものの宣言



米袋用
田んぼの生きものの宣言マーク





アイガモロボット



GPSカメラ監視中 / 設定圃場以外稼働不可





**消費者交流
情報の発信**

畑の周辺雑草でテントウムシが生まれる



5月～6月は雑草から移動したテントウムシがアブラムシ類を食べる





ニホンアマガエルやテント
ウムシが害虫を食べる



キュウリ ゴーヤとの混
植でアブラムシ防除



環境保全型農業の推進が生物多様性

地球温暖化対策のカギに 消費者の購買行動が成果を左右